

男と女のいきいきコラム

VOL.26

市民（男女共同参画懇話会委員）の方にご意見を伺いました。



渡辺 隆さん
(土岐津町)

「らしさ」を考える

「女らしさ」「男らしさ」という言葉に、あなたは何を感じるだろう。高校生に問いかけると、彼らは「父母・家族に言われて自分でも知らないうちに身に付いていて、社会的・文化的に作り出されているものだ。」と言います。また、就職活動の話をしているも、女性には「素直」「優しい」「よく気が付く」、男性には「包容力がある」「意志が強い」ところをアピールした方が、面接者に受けが良いなどと話をしています。

では私たちが考える「らしさ」は、共通のものでしょうか。

最近、若者が電車の床や路上にあぐらをかいて座っています。「女の子がそんなことをするのは『らしく

ない』と指摘すると、「マナーが悪いだけ」と返ってきました。どうやら私と彼女の「らしさ」は違うようです。今日の若い女性が考える「らしさ」は、「優しさ」や「自分の意志がはっきり言えるハキハキとした言動」でもあるようです。

現に今の若者は、親・先生・大人・目上の人へも、はっきりと自分の意見が言えます。特に女性に顕著で、女性のパワーの高揚、意識の変化を感じます。

かつては「しとやかさ」「優しさ」であると思われていた「らしさ」は、世代によるズレはありますが、確実に変わってきているようです。

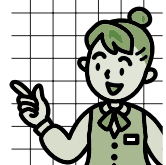
近年「男性の家庭での役割分担」が取りざたされるのもそのひとつ。このような変化を率直に受け止めることができれば、職場・家庭で起こる男女・夫婦間のズレは小さくなるのではないのでしょうか。男性は困惑しているわけにはいかないのです。

しかし、現実は何とも難しいことか。私の記憶に残る標語に「女が変わる、男が変わる、社会が変わる」があります。男性の変身を促しているようで、私の頭から消えなくなっています。

施設紹介

第3回

織部の里公園



400年前の桃山時代、美濃地域は、日本最大のやきもの産地でした。「大窯」「連房式登窯」と呼ばれる地上式の窯は、当時の技術の粋を極めたもので、ここで生産された陶器は、全国へと出荷されました。土岐市にある元屋敷窯は、美濃窯最古の連房式登窯で、当時の姿をよくとどめており、その重要性から昭和42年に国指定史跡となりました。織部の里は、この元屋敷窯周辺を「歩く」「見る」「触れる」ことで美濃桃山陶への理解を深め、楽しむための公園です。

公園内には、美濃桃山陶が体験できる作陶施設、松坂屋の創業家である伊藤家の別荘「揚輝荘」から移築された茶室「暮雪庵」、元屋敷窯跡から出土した遺物の展示室などがあります。

◆開園時間 午前9時～午後4時30分

◆休園日 月曜日（その日が祝日のときは水曜日）
祝日の翌日

12月29日から翌年1月5日まで

◆入園料 無料

◆住所 泉町久尻1246番地の1

☎⑤42710

